

## 今池から栄へ

栄から名駅方面にはよく歩くが、今池から栄方面はあまりない。朝からシンポジウムの「下見」のため中区役所に向かったが、今池で満員の地下鉄を降りて歩くことにした。通勤ラッシュだけでなく、新栄界隈のことが気になっていたこともある。

昔は新栄から栄界隈には寺院が立ち並び、墓地が広がっていた。名古屋市博物館の企画展「大にぎわい城下町名古屋」で入手した地図、現代 - 明治 - 弘化 - 文政の時代ごとのデジタルマップを見ると、界隈の変化がよくわかる。いまはビジネス街や高層マンション、歓楽街のところ、江戸時代には「寺町」であった。写真のように、いまも形を変えて寺院が散見できた。ここにあった墓地の多くは、戦災復興土地画整理事業により、平和公園に「ボチボチ」でなく一度に移転した。



このデジタルマップは構想から2年かかった博物館学芸員の労作であり、名古屋の成り立ちを知るうえで興味深い。江戸時代には名駅界隈はなにもなく、名古屋城から本町通り、広小路、大須観音を経て熱田までが賑わいの中心であった。まさに「城下町名古屋」である。「現在の地図の上に絵図を重ね合わせることで、現在と各時代との比較可能な全国初の地図」(中日新聞 07年10月23日付)である。

新栄から東新町まで行くと、中区役所はすぐ近くだ。区役所の前には「区制100周年」という大きな案内が出ていた。中区は4区制(中区・東区・西区・南区)がとられた明治41年にスタートし、文字通り名古屋市の中心に位置している。区役所は朝日生命との共同ビルであり、多くのオフィスなども入っており、他の区役所と様相を異にしている。ここの大きな地下ホールで「観光シンポジウム」を開催したが、多くの参加者があった。公開シンポジウムを企画・運営したこともあり、思い出に残るホールとなった。



(2007年12月27日 記)